

## 小学校インターンシップ(明成小学校)

団体名●丸井ゼミナール／代表者名●横井詩苑(人間科学部こども学科2年)

### はじめに

こども学科2年生の「小学校インターンシップ」では、小学校教員を目指す学生が実際の学校現場に足を運び、活動を行った。実際に教員の補助をしながら、教員に必要な資質・能力は何なのか、教員としての心構え、どのように児童と関わるべきなのか自ら体験することで学んだ。

私たち丸井ゼミ2年生は、金沢市立明成小学校で「小学校インターンシップ」を行った。活動内容や学んだこと、今後の課題について述べていく。

### 活動内容

「小学校インターンシップ」では、各ゼミの担当するそれぞれの小学校で週に1回、1回につき2～3時間ほど小学校での補助を行っている。対象の児童は1～6年生の全年齢で低学年から高学年まで幅広く関わった。体育の授業での補佐や、プリントの丸付け、掲示物貼り、資料の印刷、6年生の宿泊体験学習の補佐など授業の中では、見られない仕事もさせてもらうことができた。本来は1年間を通して小学校に行くのだが、新型コロナウイルスの影響により途中で行くことが不可になったりと思うように参加ができなかった。

あまり授業への参加はできなかったが、体育の補佐に参加する機会があり、鉄棒の授業では大学の授業でちょうど鉄棒の補佐を習っていたので実際に活かすことができた。体育の授業は児童それぞれで活動をする人が多いので、勝手な行動をする児童がいたり1人で授業を行うのは大変だなと感じた。しかしその中の教師の指導でまとめていたりなど、たくさんの学びを得ることができた。

6年生の宿泊体験学習では、いままでは体験する側しか味わうことがなかったため、宿泊体験での教師側の大変さを知ることができた。児童の人数に比べて少ない教師数だったため、ただでさえ運営するのも大変なのに体調が悪くなる子が出たりと、急な問題も起きたりなどあった。しかしその

都度、対応をされていて教師側の対応力も必要だと学ぶことができた。

### 成果、結果の考察

学ぶ時間や教員と児童に関わる時間が少なかったものの、子供たちの成長を近い距離で見ることができるのは教員にとって大きなやりがいになると実感した。また、実態に身をもって体験するからこそ苦勞する部分を新たに発見できた。授業を行うだけでなく、授業準備やそのための教材研究、プリントの丸付け、教室の掲示物の貼り替えや備品の整理整頓など、児童が下校した後も教員の仕事はたくさんあり、今まで児童側だったため、知らない仕事がたくさんあり、今回参加した私たち学生ですら知らない仕事はまだたくさん数多くあるのではないだろうかと考えさせられた。

### 今後の課題、展望

この「小学校インターンシップ」を通して、教員は児童一人ひとりと関われる時間が短いと感じた。視野を広く平等に指導・支援を行うにはどう使ったら良いのか、授業内容を工夫することで学力の差を小さくできるのか、今まで見えなかった課題とどう向き合うべきか、これからの授業にさらに熱意がわくだろう。私たち学生にとって非常に貴重な経験となった。